

令和4年度、第1回退院調整担当者会議事録

日時:令和4年6月10日(金)

13時30分~14時30分

場所:医師会館中会議室

方法:会場+オンライン

1. はじめに

会長挨拶

2.出欠確認:出席者23名(オンライン9名) 欠席者3名

3.メンバー紹介(名簿参照:自己紹介)

4.議題

1)検討事項

①今年度の活動計画について(資料参照)

司会(会長):研修計画(案)には5つあげられている。1から3は、皆さんで進めて行く内容でACP・災害時の個別計画・困難事例だが、どれも具体的ではなく、これから内容を考えていく。

他に、こういったことをやりたい、こんなことをして行けたらどうかという意見を頂きたい。この場でも電子@連絡帳に意見を寄せてほしい。

・例年、参加させて頂いているが、この会で大事なものは、月に1回、皆で集まってグループ活動を行う中で進めて行くことにある。その活動自体がこの退院調整担当者会の醍醐味でもある。その為、今の段階は、あえてぼわ一つとしておいて、グループ活動の中で方向性を考え、色付けして行く方が良いと思う。

②今年度の活動目標について(資料参照)

司会:前年と比べてわかりやすくまとめられていると思う。退院調整担当者会は顔が見えるだけでなく、少し無理ができる関係が出来てきている。

今年度、新たに加わった市内の空床情報についてお困りのこととか、改善出来たら良いと思う点などはないか、当院は病床が少ないのでいつも「病床なし」となっているが…。

それぞれの病院から10時頃までに空床を報告して貰い、一覧にして掲示している。退院調整担当者会のメンバーは閲覧が出来るようになっているが、それに対する意見はあるか。

・毎朝、空床を報告することは、特段、困らないが、全体を一つにまとめるのは大変だと思う。共通のシートに皆が入力出来、更新することができるようにすると良い。

・それが出来ると良いが、システム的に出来ないもので、いまの形になっている。

病院としては、これまでのように宛てずっぽに連絡するのではなく、空床情報を基に連絡することができる。時間外になっても患者を受け入れてもらっているので、大変助かっている。

司会:活動目標についてはどうか、

・事前に確認させてもらっているのも良いと思っている。今回は研修を5つの項目で予定しているが、一つをパンフレットの更新に充てても良いのではないかと皆さんの話を聞いていて思った。

2)情報交換

①コロナ対応について

司会:事業所の職員や家族感染が報告されているが、情報があれば、この場で聞いていきたい。

障害関係の方はご自分で訴えることが出来ないこともあると思うが、対応に関する課題などはどうか、

・当訪問看護ステーションでは、陽性の方に対応した事例が 1 名あった。その時は、スタッフも濃厚接触者にならずに対応できた。これまで対応した事例は 1 例のみだった。

・グループホーム、施設など、生活の場という所でクラスターが出ていることは、対応に問題を感じている。重度の知的障害がある方の家族がコロナに感染して入院した。本人は陽性ではないが、ヘルパーが介助に入れず、食事を準備することが出来ない為、新たに事業を立ち上げ、食料を持って行く支援を行った。

司会:熱が下がらないことで退院が延長することなどあるが、紹介で救急外来に来る方に検査は、しているのか、

・病院でも検査の枠が限られているので、全員に検査することは出来ない。入院が必要な人や保健所からの依頼に限り行っている。検査だけ希望の方は対応していない。

先程の事例にもあったように、面倒をみている家族がコロナに感染した場合、対応困難な状態がすぐに起こるので、家庭全体をみていくことが重要なキーワードとなる。

司会:病院から病院、病院から施設へ移る時、コロナ感染を否定してからの入所となると思うが、先日、看護管理者会の会長、副会長に聞くと、そこまで厳しくやっていないと言われていた。

・当施設では最近の新規の入所者について、近隣の場合は検査をしていない。以前、遠方(他県)から入所した事例では、状況がわからないので、検査を実施した。

②各施設・部会等で課題となっている事、提案等

・当施設でも職員が 1 名陽性となった。入所者との接触はない為、一緒に休憩した人のみ、検査を行った。医療機関と連携があるので、必要があれば全入居者検査を実施する体制はある。

・コロナの対応については、介護事業者と医療者との連携がどれだけ取れているかで違ってくる。登録医療機関であっても、施設のことを殆ど知らない場合があるので、普段から、どのくらい交流があるかで違う。交流がなく、利用者がそれぞれの主治医にかかっている場合や介護保険でない施設、いわゆる住宅という所については大きなクラスターになりやすい為、課題である。

司会:それぞれの部会がどのような頻度で集まっているのかなど、わかっていないので、紹介して頂きたい。

・施設部会では奇数は部会役員会、偶数は部会全体会と毎月、うち合わせを行っている。活動予定は、介護保険、医療保険の制度、お金が戻ってくる制度や毎年 9 月 1 日の防災訓練では電子@連絡帳を使つての災害想定訓練、福祉避難所の設営訓練。その他、えがおフェスの参加や老活講座など検討をしている。

・施設部会メンバーと共に進めている。コロナに関してもそうだが、医療・介護などで一緒に学びたいと考えている。

5.その他

①地域医療連携協議会への出席者について

司会: 毎年、秋口に集まって頂いているが、元々は東三河圏域の病床を整える会議が基になっている。これまでは市内の病院長と退院調整担当者会のメンバー等に出席して頂いているが、看護管理者会も出来、メンバーが増えているので、少し調整した方が良いということになった。病院からは院長と他一人、それぞれの部会からは代表者に出席して頂く方向で調整する。

②情報収集型研修について

サポセン: 全てをオンラインで行い、期間を区切って配信されるため、都合に合わせて聴講することができる。これまでは、受講を行政や包括支援センター、サポートセンター等に限定されていたが、今年は門戸が広げられた。私たちが行っている研修に近い内容であり、講義も選んで聞くことができる。個別の事前登録が必要だが、まだ受付をしているとの事なので、興味のある方は申し出をしてほしい。

6.おわりに

会長: 今年度は、退院調整担当者会はもとより、看護管理者会でも研修会を行う予定です。

退院調整担当者会は、今年も研修等で皆さんのご協力を頂きながら活動していくことになりませんが、電子@連絡帳でご意見を集めながら進めて行きたいと思えます。

今年も1年宜しく申し上げます。

文責: 豊川市医師会在宅医療サポートセンター 柳生

令和4年度、退院調整担当者会の活動目標

2022.6.10

年間目標	医療・介護等で平時から連携の仕組みが出来る ーそれぞれの視点を活かしてー
1	<p>日常的にスムーズな情報交換が出来る環境を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 市内全ての病院に於いて相談窓口及び担当者を明確にする。 ② 電子@連絡帳の活用拡大を図る。(患者情報の交換方法について検討する) ③ 退院調整担当者会の活動や医療・介護合同研修会通じ、地域で働く多職種が連携の機会とする。
2	<p>市内病院・診療所の情報をまとめ、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 市内の病院機能とレスパイト等の入院受け入れ条件を明確にする。 ② 在宅医療・認知症に対応できる医療機関の情報をまとめ、共有する。 ③ 市内病院の空床情報を共有することでスムーズな救急患者受け入れに繋げる。 ④ 豊川市内病院と地域との連携に関するアンケート調査を実施する。
3	<p>地域共通のシート・パンフレット等の認知度と利用度を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研修や会議の中で継続して取り上げる。 ② 委員会活動の中で見直し、修正を行う。
4	<p>災害時(感染対策含む)の備えを強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各施設の対策について情報共有を行う。(災害訓練の実施等) ② 在宅人工呼吸器装着中の患者・児の災害時支援について検討する。 ③ 災害時個別支援計画の策定における課題や状況についての情報を共有する。

令和4年度、退院調整担当者会主催研修実施計画

一医療・介護合同研修会一

目標「医療・介護関係者等で平時から地域連携の仕組みが出来る」

2022.6

一それぞれの視点を活かして一

統括:小林義・オンライン担当:平野・佐藤

	テーマ	実施方法及び内容	講師及び役割	開催日程	担当	協力者	担当グループ
1	「仮」地域で働く多職種でACPを共有するために	①人生の最終段階にあり、心配蘇生を望まない心肺停止傷病者への救急隊の基本的な活動ガイドラインについて ②市内の救急搬送患者の病態について ③在宅・施設での看取りの現状について	①消防関係者 ②市民病院救急関係者 ③施設部会・訪問看護等、関係多職種		柳生	救急隊 市民病院 看護局	志田 豊田 星野 伊藤
2	「自然災害への備えについて考える」	災害時個別支援計画の策定について、 ①豊川市が進めるモデル事業とは ②計画作成者の立場から現状報告	①介護高齢課 ②ケアマネ・相談員		田口	介護高齢課	牧野 林 小林 椎名 林 高橋
3	事例検討会	地域にある対応困難な事例について考える。 グループワーク	関係多職種		柳生		福尾 鈴木 武藤 濱崎 三浦
4	地域連携に関するシートの見直し	①「在宅人工呼吸療法を行う患者・家族の方へ」のパンフレットを見直し、修正する。 ②介護・医療における地域連携フロー図(急性期・回復期・地域包括・療養)病院機能別のフロー図を作成し、連携の強化と周知を図る。	関係多職種		中沼		若菜 木佐貫 梶田 松本 大谷 小山
5	講演会 「(仮)PICS:集中治療後症候群について」	(仮)内容:症状の理解と支援方法について	隅田医師・豊川市民病院のPICS対策チーム	9月以降	中沼		小林 田口 柳生
6	「仮」不登校・ひきこもり・発達障害・精神障害者への関わり、支援の実際について	(仮)医療・介護・障害・行政が連携していくために一取り組み事例から一	大場准教授	9月頃	田口		小林 中沼 柳生

令和3年度、退院調整担当者会主催研修実施報告

一医療・介護合同研修会一

目標「医療・介護関係者等で平時から地域連携の仕組みが出来る」

2022.3.9

参加者合計：268名

	テーマ	実施方法及び内容	講師及び役割	開催日程	担当	リーダー	参加者	担当グループ
1	「地域・多職種でACPを共有するために」	<p>内容：事例検討会「ACPの視点で、本人・家族の思いをどのようにくみ取り、その思いをかなえて行くか、多職種での関わりを考える。」</p> <p>①ACPについて、ミニ講座 ②事例検討会：実際に関わった事例を基にACPの視点で振り返りを行った。</p>	<p>司会：木佐貫 ミニ講座：小林佳 グループワーク進行：大谷 ファシリテーター：参加者より依頼 オンライン担当：平野・佐藤 補佐：小林義・中沼・田口</p>	11月18日(木)18時30分～19時30分：オンライン+医師会館	柳生	木佐貫	60名	<p>◎木佐貫麻紀子 ○大谷理恵子 鈴木幸子 林俊依 小林佳乃</p>
2	「自然災害への備えについて考える」ー福祉避難所についてー	<p>内容：福祉避難所についての調査結果報告。</p> <p>①行政に聞いてみた。(Q&A) ②福祉避難所の設営訓練を行った結果 ③福祉施設、病院、障害者施設に実施した「災害発生時の避難者受け入れに関するアンケート調査」結果 ④訪問看護・居宅の立場から ⑤医療的ケア児者家族に行った調査結果から：自助としてすべきこと</p>	<p>司会：星野 講師：介護高齢課：森係長 報告：豊田・田口・椎名・牧野 松本・佐宗 オンライン担当：平野・佐藤 補佐：中沼・柳生</p>	12月24日(金)18時～19時：オンライン+医師会館	小林義	豊田	91名	<p>◎豊田剛史 ○松本悦子 牧野俊樹 佐宗みどり 椎名知づる 星野功子</p>
3	「認知症と共によりよく生きるためのヒントを考える。」	<p>内容：①「旅のことは 認知症とともによりよく生きるためのヒント・カード」を使った様子を動画で紹介した。 ②事例検討会：精神科疾患がベースにあり、多重課題を抱え、介入が困難となっている事例を基に検討した。 ③認知症支援に関する施策を紹介した。</p>	<p>司会：梶田 事例紹介：近藤 ファシリテーター：参加者より依頼 施策紹介：介護高齢課 山本・橋本+松久 オンライン担当：平野・佐藤 補佐：小林義・田口・中沼</p>	1月14日(金)18時～19時：オンライン+商工会議所	柳生	梶田	53名	<p>◎梶田千明 ○松久里奈 三浦友子 近藤瑞穂 川合孝代</p>
4	「ライフステージを通した不登校・ひきこもり・発達障害・精神障害の理解と心理的・社会的支援について」	<p>～地域連携＝顔が見える関係から顔が浮かぶ関係へ～ どこの地域にでもある8050、ひきこもりに対する支援について、後回しになると複合的で大きな問題になる為、ライフステージを通して医療・介護・障害・行政がワンチームで連携して行く必要性について講演された。</p>	<p>講師：大場義貴准教授(聖隷クリストファー大学、社会福祉学科) 司会：田口 挨拶：小林義 オンライン担当：平野・佐藤 補佐：中沼・柳生</p>	2月7日(月)18時30分～19時50分：オンライン+市民病院講堂	田口	田口	64名	<p>◎田口貴史 小林義尚 中沼清美 柳生逸子</p>